



伊地知文庫  
文庫20  
321  
1



文庫20

321

(



新古今和歌集新抄

● 春歌上

伊地知氏書冊



伊地知氏書冊



三首野山まかすて白雪たまり也里小女まきほり 良經

ゆき 三首野山まかすて白雪たまり也里小女まきほり

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

春はよきよき

ふの~~~~~やままたたきし天の香久山を原る 後鳥羽

百首のなきとまのりし付もれきた

○ 山は春も山は松の影も~~~~~雪のむ水式子

るや首なきとまのりし付

御母七条院藤原  
頼子入道修理  
大夫信隆女

第八十二代四十四世後白河院  
藤原成子高倉院四子  
三朝齋院准三宮後白河院  
第二白土女御母高倉院成子

九条良經公法性寺入道前  
関白太政大臣藤原氏  
位藤原秀行女

○かきくしし 程あるをの雪はらふかきくしし 入道前関白大政大臣右大臣

入道前関白大政大臣右大臣はるるを命よめせ

けり 立春をこころを

るるにのちにもあはれにやみよみよ 俊成

題 名

まよひての夜ふりしをまよひのちをけりし 俊成 俊成

あまのついでにまよひてのちをけりし 俊成 俊成

岩にしらばもあはれにやみよみよ 西行 西行

よみ人志す 清輔云 讀人不知ト云ニ有ニ有ニ様一不知 二雖知 凡卑三詞有るニ有ニ様一不知

風中にもあはれにやみよみよ 西行 西行

けりし 西行 西行

堀川院 北村百首

あまのついでに 西行 西行

春日の雪のむをよみよ 西行 西行

歌

あまのついでに 西行 西行

天曆 北村百首

春日 西行 西行

宗徳院 西行 西行

若草 西行 西行

延喜 西行 西行

りて 西行 西行

名大夫師光女後鳥羽院

正三位權中納言俊成

俊成

散位康法男

從二位右大臣顯房男

赤人

前家議 正位大納言忠教男

從五位上木三頭



てのちぞきよとそよみけるこゝろに  
まけしよりのまの  
おれ月  
お改  
太中  
女

山崎の松がけはさししつ井月をうまらるのり  
越前  
女  
女

詩とはささきとあてをたはる  
水に春

撰津名所

藤原秀能左衛門  
尉五位下河内  
守秀宗二男

三崎にもあまたつゝのそはたの  
通光  
三男

春日の  
西行

*[Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]*

九 比田川  
たがわを  
あふちを

*[Faint handwritten text]*

此一首可  
掲書過彦

梅の  
あひちを  
あふちを  
あふちを  
あふちを

高倉第ニ皇子

言の  
親王  
二条后

注  
二条后

題名

山石そくたるひの上はせしむの藤のまゆめの子天智天皇子志貴

百々前藤原

天京富士の煙のまほ色の雲のまほりぬの法性寺入道関白子三白蓮院門跡也吉水和尚監曰鎮慈園藤原

皇徳院上布前藤原

おまゆりみゆの煙のまほりのまほりぬの後徳大寺左大臣大政御門左大臣能男清輔實之

海北のまほりのまほりぬの後鳥羽

おのこのまほりぬのまほりぬの後鳥羽

水郷春後鳥羽

みづの山と水と水郷のまほりぬの後鳥羽

みづの山と水と水郷のまほりぬの後鳥羽

あつはるのまほりぬの  
面白き一ふあ  
これつらき  
あつはるのまほりぬの  
あつはるのまほりぬの

右抄之是の水郷のまほりぬの後鳥羽  
みづの山と水と水郷のまほりぬの後鳥羽  
おのこのまほりぬのまほりぬの後鳥羽  
水郷春後鳥羽  
みづの山と水と水郷のまほりぬの後鳥羽

仁和寺殿  
春のねむりのまほりぬの後鳥羽

春のねむりのまほりぬの後鳥羽

千代のついでに二日  
のついでに三日  
のついでに四日  
のついでに五日  
のついでに六日  
のついでに七日  
のついでに八日  
のついでに九日  
のついでに十日

中務卿敦慶親王女母伊勢也  
千代のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに  
のついでに

白樂天嘉陵  
の春夜の述不明  
不昭耀を月と  
いふをよめる歌

大方の梅の白ひも  
思ひのついでに  
木のよれゆも  
類のついでに

宇治前関白大政大臣  
法皇手合道三男  
頼通

古梅云  
かきねの梅  
あつ

藤原氏本蔵八頭参議貞経  
敦家

源俊頼朝臣  
大納言経信三  
男母土左守  
貞亮女

梅花遠薫  
俊頼

梅の花  
梅の花

梅の花  
梅の花

梅の花  
梅の花

梅の花  
梅の花



東屋張守成頼  
朝臣女母信成  
也孫高子  
信成孫高子  
信成孫高子  
信成孫高子  
信成孫高子

梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
大納言公任男

いぬいさそくめつ。梅花散る人ほのちあそまに定頼

春毎左衛門權佐山城守藤原孝女母紫式部 大生大貳  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

二月雪落衣とまのそよん付ける  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

二月雪落衣とまのそよん付ける  
栗本大宮女房

西行  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

杜若花は梅  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女  
梅香あめきりも山も目形んのを井の月 俊成女

ちりゆいひの  
あはれちりゆい  
神の御心  
たのまひ

敬好此句ひてふゆ梅の花ありて神よま風吹有家

ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家

ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家  
ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家

ちりゆいひの  
あはれちりゆい  
神の御心  
たのまひ

ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家  
ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家

ちりゆいひの  
あはれちりゆい  
神の御心  
たのまひ

ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家  
ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家

ちりゆいひの  
あはれちりゆい  
神の御心  
たのまひ

ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家  
ちりゆいひのあはれちりゆい梅の花ありて神よま風吹有家

あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...  
あけほの...

刑部之類捕手令...  
中へ...  
増...  
あ...  
白...

松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...  
松葉の...

守...  
く...  
百...  
中...  
寛...  
水...  
百...  
常...  
防...

つ...  
つ...  
つ...  
つ...  
つ...  
つ...  
つ...  
つ...  
つ...  
つ...

守...  
く...  
百...  
中...  
寛...  
水...  
百...  
常...  
防...

常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...

常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...  
常...

雨多し山田のまき... 苗代水... 藤親賢子 勝命法師

増母ま苗代... 苗代水... 苗代

春雨の降るめ... 躬恒

おるまき... 高遠 輔仁 親王

百箇年... 親王

世の... の... の

た... 権中納言 經

山崎國... 権中納言

百らうすのみ付ける時その心しうめん

春風の香るに依てうらもえんまりの親とあむく香柳也殷富門院 大輔 官女

千五百番や合ふ去の介從五位下近卫将刑部 御願經男 其藤原氏

白雪のく人すまむく香柳あうりさむを風吹雅經

香柳あふもむねの田原あふもすうくあふる人有家

川 緑うらむの川茶もそふみ 松さむのていせき

踏舟もえけりこのやをあんすうく血をてんし

題をさす

志小田れそのある法のする道今ふまへてむに定は好忠

父母不詳寛和之比人也号曾根 丹後掾曾丹とせん



ちうまふもさふのふし春の柳を思ひけるのひはゆる日忠見

吉野山梅の枝は雪うけて花をけるる年や西行

白河院を廻るあふもまふけり人々山家

梅の香の先みんと思ふあふ旧暮すも山屋隆時

真一の院行人合ふ

わらわ春のわかすあふれりあふも母貞之

振返大政大臣家百首や合ふねと花の白海

ゆりあふもさふもさふもさふもさふもさふもさふも

くわんていじり  
おののけり  
ちうまふも  
はるをあふ  
かうまふも  
あふもさふも  
さふもさふも  
さふもさふも

世ののうら  
白河院の山  
家へもこの人  
りさうて行花  
こころをさし  
花の人の人さ  
ていすもさふ  
さふもさふも

あふもさふも  
あふもさふも  
あふもさふも  
あふもさふも  
あふもさふも  
あふもさふも  
あふもさふも  
あふもさふも

梅うめのりもあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
いとけあふそのめいもほろろとくはるる花はなの好よし  
百首ひゃくしゅをいそぐまのりた

今梅いまうめをいそぐまのりた  
伏ふしておのひおまをあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
不よ讀よ人ひと

ゆらん人ひと思おもへまをいそぐまのりた  
ものやうとくしうらん結むすば

昔むかしのころはあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
和わ哥か所しよをいそぐまのりた

夏なつのころはあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
寂さむ蓮れん

初はつめはあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
不よ讀よ人ひと

のたまひ

題だいをいそぐまのりた

石いし上のうへのりもあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
春はるのころはあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
公こう忠ちゆう

公こう忠ちゆう従じゆう四位い下げ石いし大だい弁べん号ごう滋し野や井い弁べん大だい蔵ざう卿けい國くに紀き之の男をとこ  
増ぞう所しよ二に平へい甲かうをいそぐまのりた

あんなに思おもへまをいそぐまのりた  
人ひと思おもへまをいそぐまのりた

八はち重じゆう梅うめをいそぐまのりた  
白しろ雲うん丹たん之の山やま共とも會かい梅うめつつのりもあつりすの月つきのうらみも花はなのうけまじり  
道だう命めい

道だう命めい

道だう命めい

道だう命めい

百首言下

白雲此處多かねて 三浦山小舎のあり 自定家

願志

昔好山ありて 自定家 正三位 經家男

和歌所の今 西齋 旅花

岩ぬりて ちる山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

五十首の 一と しまりし 時

伊物 岩ぬりて ちる山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

存の 花と して する 花を

歌の 人 ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

の 花と して する 花を

千五百番言下

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經

石と ちる 山を 控て 花も 人の 花の 云 雅經





Shanvau  
山彦

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

在原朝臣  
蔵人頭後四位  
左近中将

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

山彦のちみくしあはれも  
たはれしむらさきも  
いひしむらさきの  
うらみあつたか  
歌七

守らえ法親の五千五百ノ下よきと侍らる所

け極のたるもまゝあしむほこの終るあ神の家の隆

或る日...  
あんん...

の...  
あか...

あか...  
あか...

古抄...  
あか...  
あか...

たのむ法も風情あり...

正四位上日吉登直祝部成實男

花のうら...  
あか...

あか...  
あか...

山里...  
あか...

山里の...  
あか...

あか...  
あか...

題名

父祖不詳 在守見和比人  
号三播磨講師

梅あつ春北のふらふら母のれはは  
惠度

山梅のり風吹より花のここと花雪の持清  
康資 王母

春雨れそやある花のさきさき  
源

自首ヶ考  
具親

見山の花よりへる花  
大納言

山梅の村をみえぬまの尾上のさき  
大納言

梅川流の西の首ヶ考  
大納言

あのを花の流もみえぬまの尾上のさき  
大納言

花十首分よみ侍けり  
正三位修理大夫頭李卿舅母經平卿女  
左京大夫

尾上のさき  
大納言

若ら若宮密  
刑部卿

歌  
兼

古抄之捨身捨女  
十七

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

西行

目録... 櫻... 金剛經... 山... 越前... 宮内卿... 二条院... 讚岐

敬... 春日社... 三... 千... 六



歌志しす

白皇太后宮大夫俊成女

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

後徳大寺左大臣

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

後惠法師

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

殷富門院大輔

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

千五百番中人

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

後白河院中

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

大納言 経信

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

式子内親王

花のぬのひら

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

花のぬのひら... 花のぬのひら... 花のぬのひら...

月端まで  
此の山に  
みみかた  
の二に  
るのみ

むらりそれとるるあもひるひるまも  
のるを  
又つを  
みみかた  
の二に

つれなまきの日さあもひるひるまも  
つれなまきの日さあもひるひるまも

曲水宴あそび

中絶の家持

左折云曲水宴をうららかにあそぶ武蔵  
あそぶ武蔵をうららかにあそぶ武蔵

紀貫之曲水宴

返上是則

もろくもていづれをきみり月かた  
もろくもていづれをきみり月かた

千五百の歌

宗達法師

左折云け  
みみかた  
の二に

右折云左折のなりすけしとて  
右折云左折のなりすけしとて

重頼の御説  
 重頼の御説  
 重頼の御説

若

古の御説をよみてみるに  
 重頼の御説は、  
 古の御説をよみてみるに  
 重頼の御説は、  
 古の御説をよみてみるに  
 重頼の御説は、

權中納言公經

一説は、  
 一説は、  
 一説は、

春

和

去

駒

春の御説は、  
 和の御説は、  
 去の御説は、  
 駒の御説は、  
 春の御説は、  
 和の御説は、  
 去の御説は、  
 駒の御説は、



法隆寺

名根を清浄河のりや

権中納言國信

山吹の流

山吹の流

原見王

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

山吹の流

天曆四年三月十四日

天曆四年三月十四日

天曆四年三月十四日





春を送る世のこころを 源道師

友をきこくらくらぬぬのこころを 敬つ

夏のことめあはれを 俊如女

秋をさるるのこころを 神

冬をさるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神

如くはるるのこころを 神



神の心  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

鳴

鳴 歌はよめるやうに  
そらよの四海をまはると  
みどり

人丸

人丸 人丸 人丸  
あはれ あはれ あはれ  
あはれ あはれ あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

郭

郭 郭 郭  
あはれ あはれ あはれ  
あはれ あはれ あはれ  
あはれ あはれ あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

附島

附島 附島 附島  
あはれ あはれ あはれ  
あはれ あはれ あはれ

山

山 山 山  
あはれ あはれ あはれ  
あはれ あはれ あはれ

右

右 右 右  
あはれ あはれ あはれ  
あはれ あはれ あはれ



月あつた  
あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた  
あつたあつた

首見の草  
首見の草  
首見の草  
首見の草  
首見の草  
首見の草  
首見の草  
首見の草

邦世むのちなわらむ時鳥月たふりけりけり  
流りける月の日の中  
ほくはまの月の影  
たぐの月の影  
入道前より白右大臣の竹けり時鳥  
とをけり時鳥  
古 西の空は夕時  
年老心湖無外事麻衣草坐亦容身  
龍省花時錦帳下廬山雨夜草庵中  
遠望点滴如琴筑  
支枕幽齋聽始奇  
憶在錦城歌吹海  
七年夜雨不曾知  
半夜燈前十年事  
一時和雨到心頭

雨  
雨  
雨  
雨  
雨  
雨  
雨  
雨

橋 陸佃言橋如柚而小白花赤實又甲尹曰果之美者箕  
山之東青鳧之所有檀橋馬負熟也

歌

お模

きくたむらさき  
時鳥の中  
時鳥の中  
時鳥の中

誰里とむらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき

むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき

むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき  
むらさき





うすむのありしゆ必しよと云ふちうひさしと云ふか  
かのおしげゆ事あるまじきあり有の影のすうり  
後は大寺方長家之十首并より傳ふる

<sup>ついでに</sup>わらわしむまてとてけき申るの月たけはまてりん  
時鳥のこころをえはける三厨大宮大夫

<sup>千載</sup><sup>天長家</sup>時鳥のこころをえはける三厨大宮大夫  
<sup>夕月</sup>夕月と申るも山のまにのさうりけりてけりてり  
<sup>前</sup>前よりけりてりてりてりてりてりてりてりてりてり  
権中納公親宗

有明の月をさすてのいおぬはさかあはなむ

すげよけしむたあのおつれけきなきえぬ官を神  
杜若部とよとよあを友宗保季於後

見とて 藤原家隆朝臣  
そのめはしにいおぬあまにいふぬ

昔 藤原家隆朝臣  
かみちり世三

ひきつり別  
ひきつり別  
ひきつり別  
ひきつり別  
ひきつり別

百首并もてまはつりし式子内記五

ひきつり別  
ひきつり別  
ひきつり別  
ひきつり別  
ひきつり別

千五る番并人な権中納言公經

時鳥

千五る番并人な権中納言公經  
千五る番并人な権中納言公經  
千五る番并人な権中納言公經  
千五る番并人な権中納言公經  
千五る番并人な権中納言公經

西行法

類

西行法  
類  
山田原の山田也  
山田原の山田也  
山田原の山田也  
山田原の山田也  
山田原の山田也

山家曉時多うらむを後施大寺をたは

小山降くまのむねをのりてを照方まうく時をうらむ

時 白鷺の序の神をいふ山家もいふ

やのこのまもまうくはけりて山家もいふのうらむ

花のあらうらむを云けりて山家もいふのうらむ

りのうらむをいふこと時をいふのうらむ

み首のうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ

あまのうらむをいふこと時をいふのうらむ





銀字(河原)  
 上  
 乙  
 丙  
 丁  
 戊  
 己  
 庚  
 辛  
 壬  
 癸  
 子  
 丑  
 寅  
 卯  
 辰  
 巳  
 午  
 未  
 申  
 酉  
 戌  
 亥

百首身... 送前... 大政...

み月... 巻...



万葉... 巻...

右... 巻...

左... 巻...

右... 巻...

左... 巻...

右... 巻...

左... 巻...

右... 巻...

甚木田氏

子  
 丑  
 寅  
 卯  
 辰  
 巳  
 午  
 未  
 申  
 酉  
 戌  
 亥

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...

大... 上... 天...





ちのあゝ

歌よ

よみん

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

あつは

ねまじ人のまじとれり

浅草の角... 惠慶法師

あゝの... 杉政太政大臣

杉政太政大臣... 前大僧正慈圓

前大僧正慈圓... 精

精... 右

右... 中

中... 左

左... 福

福... 寂蓮法師

寂蓮法師... 千

千... 五百番

五百番... 白太后

白太后... 夫俊成

夫俊成... 藤原

藤原... 家

家... 朝

朝... 藤原

藤原... 家

家... 朝

朝... 藤原

藤原... 家

家... 朝

朝... 藤原

藤原... 家

家... 朝

朝... 藤原

藤原... 家

家... 朝

朝... 藤原

藤原... 家

家... 朝

あはれなれば今も今もあはれにさすのえ  
をのこしつゆのたゞしきうら  
りきりきりきりきりきりきりきりきり  
ちのあせのせいせいせいせいせいせい  
ちのあせのせいせいせいせいせいせい

竹のあせを所あせのあせのあせのあせ  
朗詠詩風生竹夜窓の月取し

鳥のあせのあせのあせのあせのあせのあせ  
春宮権大と結

杜雨詩音風生若草  
は各意に驚秋とあり  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ

五十二首  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ

あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ

寂勝四天王院の淨子  
権大納言通光  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ

あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ  
あせのあせのあせのあせのあせのあせ

家百首字令、持政大臣大臣

あつては... かしら... 古の... 持政大臣... 水邊自然涼... 神を... 秋と... 山の井せのり

歌と

西行法師

あつては... かしら... 古の... 持政大臣... 水邊自然涼... 神を... 秋と... 山の井せのり







或は...  
...  
...

...  
...  
...

文治六年 女御の内屏風に入さるる御姿の御書

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

夏...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...

...  
...  
...



ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

松高風有一声秋  
朗詠詩云池冷水無三伏夏  
この節の句まを  
あちねばいほそよ本  
あて不交  
うのぬら  
ひんぬ

百首前よりみはける中より  
古名中前前の面は  
或は月或は雪の面は  
流す水の流す水  
やうき  
家勝四天  
吹風のきこみぬる  
百首のあまをば  
附  
伏見山  
山  
山  
山

ねがひもせぬは けしきも けしきも けしきも  
恨みもせぬは けしきも けしきも けしきも  
ありとも ありとも ありとも

すくすくの  
ちかちか

守るえは清き水とて五十年の身を洗ひけり 藤原の御孫の  
照りたる衣をまきたり ちかちか ちかちかの御風

千五百番の合

折返たてぬ

清き水の局のよき御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

水鏡の御影をうらみしるはちかちか 照法師

けちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

ちかちか ちかちかの御影をうらみしるはちかちか

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威

西行法

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威

日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威

日向の御威  
日向の御威  
日向の御威



おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...

早... 宿... 花... 七月... 小弁...  
早... 宿... 花... 七月... 小弁...  
早... 宿... 花... 七月... 小弁...  
早... 宿... 花... 七月... 小弁...  
早... 宿... 花... 七月... 小弁...

おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...  
おろし神よ... 何れ神の... 延喜の... 大宮... 妻... 山邊... 権...

古くは... 神の御... 七ツク... 宮太... 俊成

七ツク... 神の御

七ツク... 宮太... 俊成... 神の御... 七ツク... 宮太... 俊成

あは... 七ツク... 権中...

七ツク... 権中...

七ツク... 権中... 神祇...

あは...

神祇...

あは... 神祇... 天の川...

天の川...

天の川... 神祇...

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

大中臣能宣の巻

あまのついでに  
又

中納言兼植木原良  
紀勢之

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

前中納言兼植木原良

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

河本之麻呂

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

従三位兼右中納言

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

月常の巻

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

守之法義

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

啓照法師

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

あまのついでに

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

あまのついでに

あきあき  
わらわら  
けぬけぬ

あまのついでに

此の御書は...  
御書は...  
御書は...

信 神...  
神...  
神...

題 不知 祐子因親王...  
祐子因親王...  
祐子因親王...

此 祐子の御書...  
祐子の御書...  
祐子の御書...

夕 此の御書...  
此の御書...  
此の御書...

小 男 麻の...  
麻の...  
麻...

玉 此の御書...  
此の御書...  
此の御書...

此の御書は...  
御書は...  
御書は...

凡 河内 躬恒...  
河内 躬恒...  
河内 躬恒...

誰 此の御書...  
此の御書...  
此の御書...

此 野の...  
野の...  
野...

千 五百 番...  
五百 番...  
五百 番...

此の御書は...  
御書は...  
御書は...









古 抄のふりかへ  
 九思の自合人...  
 ことばの...  
 ことばの...  
 ことばの...

詩はありて...  
 如体...  
 大止...  
 詩を...  
 活種...  
 前大...  
 山...

古 抄のふりかへ...  
 ことばの...  
 ことばの...  
 ことばの...  
 ことばの...

題 古 抄

古 抄のふりかへ...  
 ことばの...  
 ことばの...  
 ことばの...  
 ことばの...

西 行 法師

古 抄のふりかへ...  
 ことばの...  
 ことばの...  
 ことばの...

はらへしめり... 信正社賢... 是れは...  
のちのち... 信正社賢... 是れは...  
のちのち... 信正社賢... 是れは...

古の... 五十二... 信正社賢... 是れは...  
のちのち... 信正社賢... 是れは...  
のちのち... 信正社賢... 是れは...

古の... 五十二... 信正社賢... 是れは...

古の... 五十二... 信正社賢... 是れは...  
のちのち... 信正社賢... 是れは...  
のちのち... 信正社賢... 是れは...

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

鴨長明

後五位下 鴨長明

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

西行法師

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

藤原長俊

藤原長俊

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

和泉守部

和泉守部

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

松尾

松尾

おののさきものうらな  
おののさきものうらな  
おののさきものうらな

三

一箇のまは  
てのこの  
のこのの  
とてぬの  
ありせたり

曉の音も夜もさるる

すむかや

あつたつたの威風凛々たるありてあり  
つはつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり  
あつたつたの威風凛々たるありてあり

高圓野  
ちかも橋  
とた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

千  
ある昔今  
たはつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

深き井の月影  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた  
つたつたつた

晴あつぬの月  
すすむとけりし  
守るえ 古新らとみ  
有るよの陰あは

有明の月  
すすむとけりし  
守るえ 古新らとみ  
有るよの陰あは

水無葉 樹陰  
伊豆のあつた  
ふゆさう  
玉首の  
水無葉 樹陰  
伊豆のあつた  
ふゆさう

玉首の  
水無葉 樹陰  
伊豆のあつた  
ふゆさう  
玉首の  
水無葉 樹陰  
伊豆のあつた  
ふゆさう





吉野 吉野

あつちの... 吉野... 月... 風...

法住 法住

あつちの... 法住... 月... 風...

白丸 白丸

あつちの... 白丸... 月... 風...

あつちの... 吉野... 月... 風... 珠...

あつちの... 吉野... 月... 風... 珠... 田...





古  
神  
神

松崎七境之西海の

鴨長明

あまのついで

木のすて月おぼのあまのついで

あまのついで

影不有 七條院大徳言 女 前大徳言

あまのついで

和歌のついで 今海高自を

あまのついで

木のついで 自を 今海高自を

あまのついで

影不有 七條院大徳言 女 前大徳言

あまのついで

影不有 七條院大徳言 女 前大徳言

あまのついで

影不有 七條院大徳言 女 前大徳言

今月の月

大江千里

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで

あまのついで





宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

元久元年八月十日卯初

田家見月

源 家長

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある

宿 宿屋の屋敷に宿すも酒の肴のいりやういりあるも酒の肴のいりやういりある



七なり... のみせわし... ちのり

梧桐のしかりの木の梢延月と... 未だ... 田舎のうり... なるはななり... ひたるなり

崇徳院御時百首のけり... 左京実徳補

秋の田は... 月と夜あや... 梧桐の... 木の... 影を...

式子内親王

梧桐の... 如く... 木の... 影を...

大上... 天白王... 木の... の... 影を...

梧桐の... 影を... 木の... 影を...

梧桐の... 影を... 木の... 影を...

あや

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...

梧桐の... の... の... の... の... の... の...







原 白紙より古本のしるしありあるものなり

前中納言匡房

此の御書は... 山田の... 中納言の... 匡房... 今よりハ... 中納言 家持... 御書の... 山田の... 中納言の... 匡房... 今よりハ... 中納言 家持... 御書の...

此の御書は...

人丸

草葉の... 任人の... 神... 菅贈大臣... 任人の... 神... 菅贈大臣... 草葉の... 任人の... 神... 菅贈大臣...

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持

我が家の屋敷の末の 中納言家持







つら さらしえひすのまなりあまてあり人よつりてあめり 八幡の方  
存ふるむすこきしるさきこのやまを中ねをきくちりてやせしし 八幡の方  
のりし中ねいこくつりし 八幡の東へあつ男おこしつりてはあつとつや  
まのつりしとつりし 八幡をきくちりてやせしし 八幡の方

中納言魚捕家屋風奇つし日記

八月廿一日 宿屋へ入居りて 八幡君持てくさつたぬおきき

あつたつた 八幡君持てくさつたぬおきき

つら 八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

八幡君持てくさつたぬおきき

あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては

神とあひし野のまきあはれはて 高のよすすまの  
あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては

花山院の御成り 秋のよすすまの  
あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては

あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては

古村海にありては ありては ありては ありては ありては  
あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては

あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては

あつた月のしほしほのまじりてうらやましくあてまつりてやれん  
わさるゝあまのむすめは 振政大臣大將の侍ける時日なり  
或は後一ありては ありては ありては ありては ありては



白雲を翹ぐおどけり此の西にありて  
 おどけり此の西にありて  
 乙女を幸はむ月日丸屋と云を 遊女  
 大石丹 月日丸屋と云を 遊女  
 白雲を翹ぐおどけり此の西にありて

月日丸屋と云を 遊女  
 白雲を翹ぐおどけり此の西にありて

歌

明直法師

村中をたのぼりて  
 月日丸屋と云を 遊女  
 白雲を翹ぐおどけり此の西にありて  
 乙女を幸はむ月日丸屋と云を 遊女  
 大石丹 月日丸屋と云を 遊女

待てあをさの神のあまの  
 待てあをさの神のあまの  
 待てあをさの神のあまの

後京家隆朝臣

山もさるる月日丸屋と云を 遊女  
 白雲を翹ぐおどけり此の西にありて  
 乙女を幸はむ月日丸屋と云を 遊女  
 大石丹 月日丸屋と云を 遊女  
 部類公曾女  
 白雲を翹ぐおどけり此の西にありて  
 乙女を幸はむ月日丸屋と云を 遊女  
 大石丹 月日丸屋と云を 遊女

清の心をとらふ

清の心をとらふ... 中絶言定頼 お住息母照平 親王侍子

あすののち... せくらののちのあ

偏愛菊此... 非是花中

のれゆく路へのま... すすき

中絶言定頼 村よの 侍子

大江嘉言 仲直男

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼

お中絶言定頼









あはれりしをわがちをあててはよしとよめるまじり  
題三  
昔の好み

人のあはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

守は免法親王の千五百番ありみ侍けり

あはれしのまじり 春宮権大夫公徳

千五百番ありみ侍けり 千五百番ありみ侍けり

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

○ 題不知 西行法師  
あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

法親王の千五百番ありみ侍けり

前名御海親王

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也

あはれ風をあはれと教とてよる玉の好まじ也









情を割 ちの... 西行法師

月を指さぬの... 西行法師

山崎時多

山崎時多... 中務卿 具平 親王

ついでに... 時雨... 十月... 社園...

古... 時雨... 城の常... 社園...

冬... 時雨... 社園... 前大僧...

神の... 時雨... 社園...

大... 止天... 久... 社園...

人... 社園... 墨...

右 祭也 神皇正統記 卷之五  
世は神皇正統記 卷之五 神武天皇  
神武天皇の御世に於て  
神皇正統記 卷之五 神武天皇  
神武天皇の御世に於て  
神皇正統記 卷之五 神武天皇

折 神皇正統記 卷之五  
西行法師  
神皇正統記 卷之五  
西行法師  
神皇正統記 卷之五

今又らて七海の一歩ある神皇正統記 卷之五  
神皇正統記 卷之五

神皇正統記 卷之五  
神皇正統記 卷之五  
神皇正統記 卷之五  
神皇正統記 卷之五









